

昨日、「避難訓練」、「防災訓練」をおこないました。ヨ



昨日 2 時間目に「防災訓練」としての「避難訓練」をおこないました。「避難訓練」と「防災訓練」と書きましたが、違いは何でしょうか？

昨年度もほぼこの時期に『地震発生による火災発生を想定して』の避難訓練をおこなっています。今回は、訓練を実施するにあたって、単なる「避難訓練」ではなく、将来、子どもたちが中学生、高校生と成長していったときに、「防災」という視点で「自らが状況を正しく判断し行動することができる」ようになるための「訓練」としておこなうことを主眼におきました。

そのため、この訓練を中心となって企画・運営している生活指導の林先生と私で事前に豊中南消防署に出向き、『予防安全課』という担当部署の方と、今回の訓練の狙いなどについて意見交換し、その中で今までの「避難訓練」とは異なる、より実際に即した「防災訓練」を計画し、実際の訓練には豊中南消防署の方に指導、講評していただき、子どもたちの訓練終了後は先生たちに、単なる「避難訓練」と「防災訓練」の違いをはじめ、様々な訓練の方法や、本校に設置されている「防災機器」の意味や扱い方等々についても講義をしていただきました。

ちなみに、今回の「訓練」でこれまでと大きく異なる点はというと、

- ◆実際に校内の「非常ベル」を作動させたこと（作動させるにあたっては事前に学校の警備会社へ連絡し、また訓練開始に先立って近隣へ放送で非常ベルが作動することを伝えています）
- ◆煙発生装置で煙（体には無害のものです）を発生させ、その中を通過して避難することを子どもたちが経験したこと（全ての学年ではありません。火元と設定している箇所に近い教室の子どもたちです。）

この 2 点になります。

訓練は次のような段階で行いました。—「非常ベルが鳴る—火災発生が校内のどこなのかを先生が確認—全校へ放送で避難指示—各クラスとも先生たちの誘導で運動場へ避難開始—火災が発生している校舎からもっとも遠い南門前に集合し点呼安全確認—」といったものです。

非常ベルが鳴ってから全員が南門に安全に集合完了（安全確認が完了）するまでにかかった時間は「3 分 3 秒」、その中で一番最初に集まってきたのは北館 1 階の 1 年生で、安全確認が完了したのは開始後約 1 分でした。

また、ここにいたるまで、校舎内で移動避難しているときに、先生の指示であたまたま教科書等をあてて怪我を防ぎながら移動していた子どもたちや煙から自分を守るためにハンカチや手で口と鼻をおさえて避難している子どもたち、また、移動避難のときはおしたり、しゃべったりしないで「避難のルール」に従って真剣に訓練をおこなっていたことなどについて、南消防署の方から大変ほめていただきました。

さらに、避難集合が完了したあと、実際に消火器を使う手順などを説明してもらい、先生たちが実際の消火器（訓練用なので水消火器になっています）を使って放水の様子を見ました。ちなみに、この普通の消火器 1 本でどのくらいの時間消火ができるかご存知でしょうか？答えは 15 秒です。この時間をいかに効果的に使い初期段階の消火ができるかは何度も訓練をする必要があります。

こういった訓練の中で、もっとも大切なことは「自分の身は自分で守る」こと、そして避難に際しても、いつでもとにかく運動場へでていくことがベストの選択ではなく、地震発生等であればまだまだ余震があり、「今いる場所」が外へでるよりも安全であることもあるということです。

そして、こういった状況を自分でしっかりと判断できるようになっていくことが最も重要なことなのです。

来年度から一部の教科で先行実施される「新学習指導要領」で求められている「子どもたちが自ら考え、自ら学び、自ら行動できる」ことは、教科学習だけではなく、こういった学校生活や家庭でも遭遇することがありえる非常時にも求められています。

今日 1 月 17 日は、「阪神・淡路大震災」が発生し多くの犠牲がであの日からちょうど 23 年目です。今の子どもたちは勿論、この災害を知りません。先生たちの中でも直接知らない世代が増えています。

「災害は忘れた頃にやってくる」という諺がありますが、まさにその通りです。23 年前のあの日、まさかこの大阪周辺でそのような巨大地震が発生し信じられないような被害がおこるとは誰も思ってもみなかったのです。

いま一度、ご家庭でもこういった自然災害がもし起こったら…ということについて子どもたちも一緒にお話しをしてみてください。

To be continued (次号に続きます)

地震で火災が発生した神戸

